



# 平成23年2月期 第1四半期決算短信

平成22年7月7日

上場取引所 東 大

上場会社名 イズミヤ株式会社

コード番号 8266 URL <http://www.izumiva.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 坂田 俊博

取締役 上席執行役員  
問合せ先責任者 (役職名) 秘書・広報室長 兼 総務担当 兼 情報 システム企画担当 (氏名) 田中 博和

TEL 06-6657-3310

四半期報告書提出予定日 平成22年7月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年2月期第1四半期の連結業績(平成22年3月1日～平成22年5月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年2月期第1四半期	86,765	△6.8	173	△45.9	△117	—	△117	—
22年2月期第1四半期	93,127	—	320	—	13	—	△1,268	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年2月期第1四半期	△1.37	—
22年2月期第1四半期	△15.73	—

### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年2月期第1四半期	249,848	—	97,242	38.9	—	—	1,140.91	—
22年2月期	250,245	—	95,706	38.2	—	—	1,186.94	—

(参考) 自己資本 23年2月期第1四半期 97,200百万円 22年2月期 95,663百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年2月期	—	3.00	—	3.00	6.00
23年2月期	—	—	—	—	—
23年2月期(予想)	—	3.00	—	3.00	6.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成23年2月期の連結業績予想(平成22年3月1日～平成23年2月28日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
第2四半期	181,000	△3.0	1,700	407.3	1,000	—	300	—	—	3.72
連結累計期間	358,000	△2.9	4,300	98.2	3,000	221.2	800	—	—	9.93

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年2月期第1四半期 85,291,365株 22年2月期 85,291,365株

② 期末自己株式数 23年2月期第1四半期 96,052株 22年2月期 4,695,164株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 23年2月期第1四半期 85,195,799株 22年2月期第1四半期 80,598,293株

## ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間（平成22年3月1日～平成22年5月31日）は、一部の産業で景気回復の兆しが見られるものの、雇用や所得の改善には至っておらず生活者の消費マインドの低下により、小売業界においては厳しい経営環境が続いております。

当社グループは、平成21年3月より3ヵ年中期経営計画「change-i」をスタートさせ、営業改革と費用構造改革を推進しております。イズミヤ各店におきましては「地域密着」を最重点政策として、お客様満足の向上と競合他社との差別化を図っております。

特に、売上高の7割を占めるGMSについては個店毎に位置付けを明確にし、活性化、効率化、スクラップ&ビルドの3つのパターンに分類して見直しを進めております。平成22年3月に効率化パターンのモデル店舗として今福店（大阪府）の改装をいたしました。また、SMについては、更なる顧客利便性の向上を目指し、3月に天下茶屋店（大阪府）を改装いたしました。新規出店につきましては、戦略業態であるスーパーセンター広陵店（奈良県）を4月に開店いたしました。

また、販売促進面においては、厳しい消費環境下、少しでも消費者の購買意欲を喚起しようと、さまざまなイベント企画を実施しましたが、天候不順による季節品の不調もあいまって既存店売上高は苦戦しました。

商品においては、商品原価の引下げと低価格販売を実現する為に、イズミヤ(株)、ユニー(株)、(株)フジと3社で共同開発したPB「Style ONE」を、第1四半期末現在、671SKU（単品）まで拡大いたしました。

グループ各社においては、(株)デリカ・アイフーズや(株)アバンティブックセンター等の物販会社が費用構造改革の推進により増益を確保したものの、イズミヤカード(株)が改正貸金業法による金利引下げの影響でキャッシング収益が減少したことにより大幅な減益となりました。

重点取組課題である費用構造改革は計画を上回るコストを削減することができましたが、消費環境の厳しさにより、売上高の減少による荒利高の減少をカバーすることはできませんでした。

これらの結果、当社グループの第1四半期連結累計期間の業績は、営業収益は867億65百万円（前年同期比6.8%減）、営業利益は1億73百万円（前年同期比45.9%減）、経常損失は1億17百万円（前年同四半期の経常利益は13百万円）、四半期純損失は1億17百万円（前年同四半期の四半期純損失は12億68百万円）となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金の減少等により、前連結会計年度末に比べて3億97百万円減少し、2,498億48百万円となりました。

負債は、店舗閉鎖損失引当金の減少等により、前連結会計年度末に比べて19億32百万円減少し、1,526億6百万円となりました。

純資産は、自己株式の減少等により、前連結会計年度末に比べて15億35百万円増加し、972億42百万円となりました。

## (2) 連結キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較して15億86百万円減少し、74億96百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益19百万円、減価償却費15億97百万円でしたが、店舗閉鎖損失引当金の減少等による支出があったことにより、18億10百万円の支出（前年同四半期は42億36百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、新規出店及び店舗改装等に伴う有形固定資産の取得12億26百万円、子会社株式の取得12億75百万円等による支出があったことにより、20億85百万円の支出（前年同四半期は4億16百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の処分による収入等があったことにより、23億10百万円の収入（前年同四半期は19億57百万円の支出）となりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年4月6日に公表した業績予想からの変更はございません。

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 簡便な会計処理

①棚卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出方法は、実地棚卸を省略し、前連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

②固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産につきましては、連結会計年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

③法人税等の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しましては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

2. 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,598	9,168
受取手形及び売掛金	10,708	9,794
商品及び製品	22,019	21,500
仕掛品	1	1
原材料及び貯蔵品	184	155
その他	14,196	16,548
貸倒引当金	△1,239	△1,142
流動資産合計	53,470	56,027
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	57,043	55,697
土地	88,375	88,382
その他(純額)	4,289	4,503
有形固定資産合計	149,708	148,583
無形固定資産		
のれん	339	365
その他	9,616	9,584
無形固定資産合計	9,956	9,949
投資その他の資産		
敷金及び保証金	29,343	30,596
その他	7,636	5,350
貸倒引当金	△344	△338
投資その他の資産合計	36,635	35,609
固定資産合計	196,300	194,142
繰延資産	77	75
資産合計	249,848	250,245







